

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200311		
法人名	有限会社 クラスト		
事業所名	グループホーム あんど	ユニット名	まちな
所在地	宮城県登米市迫町佐沼字大網229-3		
自己評価作成日	令和 6年 1月 31日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6年 2月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎月、季節の行事を開催しています。特に夏には地域の方を招待し盛大な夕涼み会が恒例となっています。医療面では、職員として看護師を配置しており24時間オンコールの体制となっています。また、夜間であっても主治医が訪問してくださり必用に応じて処置、他医療機関を紹介していただく体制となっています。生活面では既存のサービスにとらわれず、様々な要望に応えられるよう職員同士が話し合い実践しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、登米市迫町佐沼大網地区の住宅街の一角に2ユニット「グループホームあんど」があり、18名の入居者が生き生きと楽しい生活をしている。各ユニットで掲げた目標「笑顔」を基に、常に入居者の目線に立ち笑顔で寄り添うケアを実施している。外出は、近くの津島神社に初詣に行ったり、花見や紅葉見物にドライブに出かけ四季折々の季節を楽しんでいる。職員の知人の紹介で大相撲の力士が慰問に来訪し入居者は大変喜んで交流した。今年ホームの庭で夕涼み会を実施し、ゲームをしたり焼きそばや焼き鳥を食べて笑顔で楽しんだ。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホームあんど)「ユニット名まちね」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(あたりまえの暮らしに今日も安堵)事業所理念を基本にユニットごとの理念を作り、1年毎に話し合い新たな理念をフロアに掲示し共有、実践につなげている。	ホーム理念を基に、毎年各ユニットでアンケートを取り作成した目標を掲げている。フロア等に掲示し、目にする事でケアに活かせるよう支援している。日常の暮らしの中で穏やかに笑顔で暮らせるように実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	食材や日用品購入で近所の商店へ出かけ挨拶を交わす関係が築けています。また、散歩でも声をかけていただいたり、雑巾用にと衣類をご寄付していただくこともありました。	散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、地域商店へ入居者の希望と一緒に日用品等の買い物で交流している。区長より広報誌や敬老会の記念品を持参した際、情報交換している。地域住民から花を貰うこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あんど瓦版をご近所へ配布し、施設の情報を発信していくことで認知症の人や介護、施設が身近になっていくよう取組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や研修、感染症罹患患者などの報告を行っている。特に地区の感染状況のご意見を頂き、外出や面会の参考としている。直近では能登地震を受け発電機の定期点検の助言をいただく。	市職員や地域包括職員、区長、居宅事業所が参加し2カ月毎に開催している。行事や外部評価、内部研修等を報告している。メンバーから育成会館の落成による内覧会、眼科の新設等の情報を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回ご参加いただき、写真で施設の取り組みを伝えたりすると共に、市の担当の方からはご意見、感染情報や研修開催のお知らせを頂いています。	介護認定の更新手続きや生活保護の相談などでその都度、連絡を取り合っている。地域課題情報交換会に管理者が参加し、結果は職員に周知している。「あんどかわら版」で行事などの情報を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通じ、拘束しないケアを職員全体が理解し実践しています。玄関に鍵をかけることはもちろん、言葉が行動を制限することも意識しながらケアに取り組んでいます。	身体的拘束適正委員会を3カ月毎に開催し「身体拘束で解決できることは何もない」を基本理念としている。どんなことがあっても拘束を行わない姿勢で取り組んでいる。帰宅願望の方は、話を聞き一緒に散歩する等、気分転換を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修実施の他、身体拘束・虐待防止委員会を設置し定期的な報告や話し合いを行っている。具体例はなかったが仲の良さから馴れ合いにならないよう注意喚起を行った。	勉強会で言葉や行動を制限していないかなど振り返り、不適切なケアを無くすよう職員間で話し合い、虐待防止に努めている。管理者は、職員に声掛けする等、相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに、日常生活自立支援事業で金銭管理を利用されていた方もおり実際に携わることもありました。また、内部研修にて権利擁護も学び普段のケアに実践しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結では、事前に2時間程時間を要することを伝え、十分な時間を取っていただき、一つ一つ疑問を尋ねながら理解が得られるよう説明を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情がサービス向上に繋がること説明すると共に相談先が複数あることを伝えている。また、面会時には職員が積極的に話しかけ意見を聞く機会としている。	面会は、事務所や居室でマスク着用で短時間で行っている。好物の菓子や飲み物を持って来訪している。母の日に花が届き喜んで涙を流し、電話する方もいる。「あんどかわら版」の送付は家族より喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から話す機会を設けているほか、契約更新では代表者が行い意見を聞いている。また、各会議でも職員の発言を積極的に取り入れるよう進めている。	重度の方に、安全に入浴できるようにシャワーチェアや各居室に加湿器を導入し、快適に過ごせるように反映された。講師を招いて外部研修をしてどうかの提案で認知症と看取りについての研修会を実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々と連絡をとり職場環境や労働条件の希望などの把握に努めている。また、資格取得や研修参加を促し向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設より講師を招き内部研修を行っている。また、勤務調整や開催時間を調整することで全職員が参加できるよう実施している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のデイサービスやショートステイとの交流や合同で検診車を利用し健康診断を行っている。また、登米市事業者協議会へ加入し情報交換を行っている。	登米市事業者協議会加入のグループホームと電話で空き状況など情報交換をしている。訪問マッサージ師から入居者の身体状況など情報を得ている。地元の薬剤師より処方された服薬等のアドバイスを貰った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供前には、自宅や病院へ伺い話しやすい環境で、ご希望などニーズの確認また、不安や課題を丁寧に確認しながらケアへの実践とつなげています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様とは別に話を聞く機会を設け本音で話せる環境を作っている。また、契約前後一度で終わることなく話す機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前は勿論、利用後も現状においての希望や思いを見極め継続的把握に努めている。現在、入所しながらのサービス利用や訪問マッサージを利用している方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にもできる事は行って頂き、支え合える家族のような関係を築いています。ゆっくり会話をしながら互いが思い合える関係となっています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にあまり来られないご家族様にも、現状を伝えながら関係が途切れないよう支援しています。また、電話などかけたいときにかけられるよう家族にも説明し支援させていただいています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用されていた美容院やスーパーへ出掛ける方がいたり、家族や友人に電話連絡される方もおり入居後も環境が変わらず生活出来よう取り組んでいます。	結婚報告に來たり成人式姿を見せに來る孫がいる。家族や友人等が來訪している。本人の希望で兄弟会で遠刈田に出掛けたり、自宅を見にいたり、正月料理を食べてくる方等馴染みの支援を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握しながら、席位置の工夫や家事作業のお願いを行っている。職員を含め一緒に作業しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からお手紙を頂いたり、園芸を趣味としているご家族様に見学のお誘いいただき、現在は恒例行事となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時から趣味、趣向をお伺いしたり希望を確認させていただいています。また、意思疎通が困難な方でも生活歴やご家族の話から本人の思いを探り支援させていただいています。	バイクが好きで東京から地元まで遠乗りしたことや洋食屋に勤務し苦勞したことなど昔話を傾聴している。好きなジャズや民謡を聞きたい方は、CDやDVDで思いを叶えている。意思表示が困難な方は筆談で伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実際に生活していた場所を確認させて頂いたり、ご家族や担当ケアマネージャーから情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況や心身の状態を記録し現状を把握しています。また、申し送りノートに変更や特記事項を書き込み職員間で情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を踏まえ、職員全体で話し合いながら介護計画を作成している。また、普段から介護計画に沿った記録を行うことで職員も意識しやすくアイデアの元となっている。	3ヵ月毎にモニタリングし、カンファレンスを行っている。糖尿病の方は、医師の指導で食事量や水分量の調整をプランに入れ支援している。遠方の家族へは、電話やメールで説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録類を i Pad 使用に変更することで見直しや、まとめが行いやすくなり気づきや実践、介護計画の見直しにつながっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ディサービスや訪問マッサージなどを利用するなど外部のサービスを取り入れています。また、行きたいところや食べたいものなど普段の会話から取り入れ実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや食事処にスロープや車いす用のお手洗があるかなどを把握し利用者が安全に移動できるよう支援している。また、ベンチや無料のお茶があるなども把握し一服してきている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医料機関だけでなく、元々のかかりつけ医へ受診しているかたもあり、希望に添って同行も行っている。また、状態が変化したときには医師の説明を聞く機会を設けている。	かかりつけ医の受診は、看護職員が付き添い入居者の状況を説明している。皮膚状態の受診は訪問診療で対応している。受診の結果は家族に報告している。歯科協力医に受診や口腔ケアを相談し助言を貰っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置し、日々の変化の確認を行い必要時には通院や訪問で受診している。 24時間オンコールで夜間でも相談出来る配置となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族の了解を得ながら治療の説明と一緒に聞き、施設での介護方法を伝えている。また、面会機会などに看護師や相談員と関係作りに努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時(看取りに関する指針)を元に説明を行い、看取り期には再度意思確認を行うと共に、できる事、出来ないことを伝え、医師説明も聞けるよう支援している。また、家族にも泊まって頂けるよう説明したりゆっくりして時間が過ぎせるよう配慮している。	「重度化における対応(看取り)指針と同意書」が明文化している。終末期には、主治医と職員が連携し、家族の意向に沿った支援を行っている。看取り期は、家族が泊まる事が出来、家族と過ごす時間を大切にしている。今年1名看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、研修を通して全ての職員が対応できるよう実践している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回行い内一回は消防職員参加して頂き避難訓練を行っている。また、災害時準備物に関して運営推進会議を通しご意見いただき見直しを行いました。	夜間想定を含む年2回の避難訓練を実施している。区長の参加があり、入居者の見守りをお願いしている。署員より、天井まで火が到達した場合は、消化器の消火は出来ないため直ちに避難するよう助言があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を人生の先輩として尊重し、真心を持って声掛けするよう徹底しています。また、排泄の失敗や認知症による行動、病気など本人の立場に立ちながら職員同士の情報共有時も配慮しています。	名前は「さん」付けで呼んでいる。トイレ介助や入浴時は、ドアを閉めるなど羞恥心やプライバシーに配慮している。洋食屋に勤務した方と食事作りを一緒にしたり、編み物をした方等は継続できるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活で食事や衣類に関して選んでいただくよう支援するのは勿論、人によっては選択しやすいよう工夫しています。また、誕生日はお好みで出前に変更しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	直ぐに対応するを基本として、直ぐに対応できない時には、出来ないで終わらないよう理由やいつ対応できるかなどを伝えていきます。また、その日の希望を会話の中から見つけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節での衣替えを本人と行い、好みの物を準備しています。 敬老会では皆さん化粧をして参加されています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から希望を聞いたり、季節の食材を取り入れています。また、誕生日には出前でも購入でも好きな物を選んでいただきお祝いをしています。	入居者の希望や好き嫌いを考慮しながら、職員が調理している。刺身やラーメンを好む方が多い。誕生日には、職員と好きな寿司を食べてくる方もいる。ホットケーキや焼きそば、郷土食のハット汁作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックし提供しています。また、刻みやミキサー食など健康状態に合わせ提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人合わせながら、口腔ケア用品を準備できる事は行って頂いている。ご家族と相談しながら定期的に歯の掃除で通院されている方もおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録をしながら排泄パターンを掴み、トイレ案内を行っています。また、介助でも出来るところはなるべく行って頂いています。	自立での排泄は9名である。他の方は排泄チェック表を活用し、声掛けしたり、車いす介助、落ち着きがなくなる等サインを把握し、トイレ誘導している。夜間は、声掛けやポータブルトイレ使用等個々に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の物を取り入れながら食事提供すると共に運動機会も取り入れ便秘解消につなげています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	希望に添って入浴していただいておりますが、入浴日を決める方であっても、その方の思いに沿いながら曜日、時間帯、順番を工夫しています。入浴が職員との会話機会にもなっています。	一番風呂や同性介助、好みの湯温等に応じ、週2～3回の入浴支援をしている。皮膚状態に合わせ、ボディソープを使用する方もいる。入浴の難しい方は、声掛けに工夫し入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人で不安な方にはソファで休んでいただいたり、温かいお飲み物を提供しながら安眠につなげています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧を作ると共に、連絡ノートを活用しながら全員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションより作業を好まれる方もおり、その方にあつた活動を提供しています。男性であっても調理が得意な方もおり積極的に台所に入っております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に日光浴や散歩の機会を設けるほか、季節の行事、ドライブへ出かけています。家族が美容師の方もおり気軽に出かけ毛染めを行う方もいます。	近くの津島神社へ初詣に行ったり、ドライブで平沼沼や南方の桜、長沼の紅葉見物に出かけている。天気の良い日は、中庭で茶和会や夕涼み会、芋煮会等をしている。プランターに花を植える。病院の帰り職員とコーヒーを飲んでくる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様にもその大切さを話し、少額でも持てるよう支援しています。 外出制限などが多くても、必要な物をお伺いし職員が購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を受けて下さるよう説明し、不安や希望を十分職員が聞きながら必要に沿って連絡が取れるよう支援しています。 携帯電話で自由に連絡を取られる方もいます。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファースペース、小上がりスペースがあり利用者同士の語り合いの場になっている。 夜間は照明を暖色系にするなど刺激の少ないものに変更している。	フロアは、吹き抜けで天窓があり明るく、定期的に換気を行っている。ひな壇を飾り季節を感じさせている。テレビを見たり、昔の歌のCDをかけたり、体操やゲームなどしながら1日の大半をフロアで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置や読書出来る場所を作り共同生活の中でも一人になれる空間となっています。また、家事やレクリエーションを通し孤独にならないよう支援を行っています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に環境が変わるリスクを話し、使い慣れた物をなるべくご用意いただいています。また、家族の写真や大切にしている物も持ち込んでいただくよう説明しています。	布団やテレビ、タンス、冷蔵庫、携帯電話等を持ち込んでいる。自作の習字や孫の写真を飾り過ごしやすく工夫している。好きな本を読んだり、日記を書いたり、テレビを見たり携帯電話で家族に電話するなど過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を話し合いながら、つたい歩きが出来るよう工夫しています。また、物を片付けるだけでなく安全に利用していただけるよう工夫しながら環境作りをおこなっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0471200311, 有限会社 クラスト).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月、季節の行事を開催しています。特に夏には地域の方を招待し盛大な夕涼み会が恒例となっ...

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL (http://www.kaigokensaku.jp/).

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、登米市迫町佐沼大網地区の住宅街の一角に2ユニット「グループホームあんど」が...

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会).

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Results (self-check), and Achievement Results (external evaluation).

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホームあんど)「ユニット名そあれ」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(あたりまえの暮らしに今日も安堵)事業所理念を基本にユニットごとの理念を作り、1年毎に話し合い新たな理念をフロアに掲示し共有、実践につなげている。	ホーム理念を基に、毎年各ユニットでアンケートを取り作成した目標を掲げている。フロア等に掲示し、目にする事でケアに活かせるよう支援している。日常の暮らしの中で穏やかに笑顔で暮らせるように実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	食材や日用品購入で近所の商店へ出かけ挨拶を交わす関係が築けています。また、散歩でも声をかけていただいたり、雑巾用にと衣類をご寄付していただくこともありました。	散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、地域商店へ入居者の希望と一緒に日用品等の買い物で交流している。区長より広報誌や敬老会の記念品を持参した際、情報交換している。地域住民から花を貰うこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あんど瓦版をご近所へ配布し、施設の情報を発信していくことで認知症の人や介護、施設が身近になっていくよう取組んでいます。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や研修、感染症罹患患者などの報告を行っている。特に地区の感染状況のご意見を頂き、外出や面会の参考としている。直近では能登地震を受け発電機の定期点検の助言をいただく。	市職員や地域包括職員、区長、居宅事業所が参加し2か月毎に開催している。行事や外部評価、内部研修等を報告している。メンバーから育成会館の落成による内覧会、眼科の新設等の情報を運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回ご参加いただき、写真で施設の取り組みを伝えたりすると共に、市の担当の方からはご意見、感染情報や研修開催のお知らせを頂いています。	介護認定の更新手続きや生活保護の相談などでその都度、連絡を取り合っている。地域課題情報交換会に管理者が参加し、結果は職員に周知している。「あんどかわら版」で行事などの情報を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通じ、拘束しないケアを職員全体が理解し実践しています。玄関に鍵をかけることはもちろん、言葉が行動を制限することも意識しながらケアに取り組んでいます。	身体的拘束適正委員会を3か月毎に開催し「身体拘束で解決できることは何もない」を基本理念としている。どんなことがあっても拘束を行わない姿勢で取り組んでいる。帰宅願望の方は、話を聞き一緒に散歩する等、気分転換を図っている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修実施の他、身体拘束・虐待防止委員会を設置し定期的な報告や話し合いを行っている。具体例はなかったが仲の良さから馴れ合いにならないよう注意喚起を行った。	勉強会で言葉や行動を制限していないかなど振り返り、不適切なケアを無くすよう職員間で話し合い、虐待防止に努めている。管理者は、職員に声掛けする等、相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに、日常生活自立支援事業で金銭管理を利用されていた方もおり実際に携わることもありました。また、内部研修にて権利擁護も学び普段のケアに実践しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結では、事前に2時間程時間を要すことを伝え、十分な時間を取っていただき、一つ一つ疑問を尋ねながら理解が得られるよう説明を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情がサービス向上に繋がること説明すると共に相談先が複数あることを伝えている。また、面会時には職員が積極的に話しかけ意見を聞く機会としている。	面会は、事務所や居室でマスク着用で短時間で行っている。好物の菓子や飲み物を持って来訪している。母の日に花が届き喜んで涙を流し、電話する方もいる。「あんどかわら版」の送付は家族より喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から話す機会を設けているほか、契約更新では代表者が行い意見を聞いている。また、各会議でも職員の発言を積極的に取り入れるよう進めている。	重度の方に、安全に入浴できるようにシャワーチェアや各居室に加湿器を導入し、快適に過ごせるように反映された。講師を招いて外部研修をしてどうかの提案で認知症と看取りについての研修会を実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々と連絡をとり職場環境や労働条件の希望などの把握に努めている。また、資格取得や研修参加を促し向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設より講師を招き内部研修を行っている。また、勤務調整や開催時間を調整することで全職員が参加できるよう実施している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のデイサービスやショートステイとの交流や合同で検診車を利用して健康診断を行っている。また、登米市事業者協議会へ加入し情報交換を行っている。	登米市事業者協議会加入のグループホームと電話で空き状況など情報交換をしている。訪問マッサージ師から入居者の身体状況など情報を得ている。地元の薬剤師より処方された服薬等のアドバイスを貰った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供前には、自宅や病院へ伺い話しやすい環境で、ご希望などニーズの確認また、不安や課題を丁寧に確認しながらケアへの実践とつなげています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様とは別に話を聞く機会を設け本音で話せる環境を作っている。また、契約前後一度で終わることなく話す機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前は勿論、利用後も現状においての希望や思いを見極め継続的把握に努めている。現在、入所しながらのデイサービス利用や訪問マッサージを利用している方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にもできる事は行って頂き、支え合える家族のような関係を築いています。ゆっくり会話をしながら互いが思い合える関係となっています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にあまり来られないご家族様にも、現状を伝えながら関係が途切れないよう支援しています。また、電話などかけたいときにかけられるよう家族にも説明し支援させていただいています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用されていた美容院やスーパーへ出掛ける方がいたり、家族や友人に電話連絡される方もおり入居後も環境が変わらず生活出来よう取り組んでいます。	結婚報告に來たり成人式姿を見せに來る孫がいる。家族や友人等が來訪している。本人の希望で兄弟会で遠刈田に出掛けたり、自宅を見にいたり、正月料理を食べてくる方等馴染みの支援を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握しながら、席位置の工夫や家事作業のお願いを行っている。職員を含め一緒に作業しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からお手紙を頂いたり、園芸を趣味としているご家族様に見学のお誘いいただき、現在は恒例行事となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時から趣味、趣向をお伺いしたり希望を確認させていただいています。また、意思疎通が困難な方でも生活歴やご家族の話から本人の思いを探り支援させていただいています。	バイクが好きで東京から地元まで遠乗りしたことや洋食屋に勤務し苦労したことなど昔話を傾聴している。好きなジャズや民謡を聞きたい方は、CDやDVDで思いを叶えている。意思表示が困難な方は筆談で伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実際に生活していた場所を確認させて頂いたり、ご家族や担当ケアマネージャーから情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況や心身の状態を記録し現状を把握しています。また、申し送りノートに変更や特記事項を書き込み職員間で情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を踏まえ、職員全体で話し合いながら介護計画を作成している。また、普段から介護計画に沿った記録を行うことで職員も意識しやすくアイデアの元となっている。	3ヵ月毎にモニタリングし、カンファレンスを行っている。糖尿病の方は、医師の指導で食事量や水分量の調整をプランに入れ支援している。遠方の家族へは、電話やメールで説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録類を i Pad 使用に変更することで見直しや、まとめが行いやすくなり気づきや実践、介護計画の見直しにつながっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスや訪問マッサージなどを利用するなど外部のサービスを取り入れています。また、行きたいところや食べたいものなど普段の会話から取り入れ実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや食事処にスロープや車いす用のお手洗があるかなどを把握し利用者が安全に移動できるよう支援している。また、ベンチや無料のお茶があるなども把握し一服してきている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医料機関だけでなく、元々のかかりつけ医へ受診しているかたもあり、希望に添って同行も行っている。また、状態が変化したときには医師の説明を聞く機会を設けている。	かかりつけ医の受診は、看護職員が付き添い入居者の状況を説明している。皮膚状態の受診は訪問診療で対応している。受診の結果は家族に報告している。歯科協力医に受診や口腔ケアを相談し助言を貰っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置し、日々の変化の確認を行い必要時には通院や訪問で受診している。 24時間オンコールで夜間でも相談出来る配置となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族の了解を得ながら治療の説明と一緒に聞き、施設での介護方法を伝えている。また、面会機会などに看護師や相談員と関係作りに努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時(看取りに関する指針)を元に説明を行い、看取り期には再度意思確認を行うと共に、できる事、出来ないことを伝え、医師説明も聞けるよう支援している。また、家族にも泊まって頂けるよう説明したりゆっくりして時間が過ぎせるよう配慮している。	「重度化における対応(看取り)指針と同意書」が明文化している。終末期には、主治医と職員が連携し、家族の意向に沿った支援を行っている。看取り期は、家族が泊まる事が出来、家族と過ごす時間を大切にしている。今年1名看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、研修を通して全ての職員が対応できるよう実践している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回行い内一回は消防職員参加して頂き避難訓練を行っている。また、災害時準備物に関して運営推進会議を通しご意見いただき見直しを行いました。	夜間想定を含む年2回の避難訓練を実施している。区長の参加があり、入居者の見守りをお願いしている。署員より、天井まで火が到達した場合は、消化器の消火は出来ないなので直ちに避難するよう助言があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を人生の先輩として尊重し、真心を持って声掛けするよう徹底しています。また、排泄の失敗や認知症による行動、病気など本人の立場に立ちながら職員同士の情報共有時も配慮しています。	名前は「さん」付けで呼んでいる。トイレ介助や入浴時は、ドアを閉めるなど羞恥心やプライバシーに配慮している。洋食屋に勤務した方と食事作りを一緒にしたり、編み物をした方等は継続できるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとつ一つご本人に確認し、サービスを提供しています。誕生日には希望によって職員と二人で外食へ出かけたりなんでも話やすい環境ができています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	直ぐに対応するを基本として、直ぐに対応できない時には、出来ないで終わらないよう理由やいつ対応できるかなどを伝えています。また、その日の希望を会話の中から見つけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に季節によって衣類を準備していただき季節によったおしゃれができるよう支援しています。 敬老会では皆さん化粧をして参加されています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には外食や希望メニューなど希望を話していただき提供している。また、普段でも新聞広告を見ながら会話の中からメニューを決めることもある。	入居者の希望や好き嫌いを考慮しながら、職員が調理している。刺身やラーメンを好む方が多い。誕生日には、職員と好きな寿司を食べる方もいる。ホットケーキや焼きそば、郷土食のハット汁作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックし提供しています。また、刻みやミキサー食など健康状態に合わせ提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけや口腔ケアを行っている。また、定期的に口腔内をチェックさせていただきトラブルがあれば歯科通院を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録をしながら排泄パターンを掴み、トイレ案内を行っています。また、介助でも出来るところはなるべく行って頂いています。	自立での排泄は9名である。他の方は排泄チェック表を活用し、声掛けしたり、車いす介助、落ち着きがなくなる等サインを把握し、トイレ誘導している。夜間は、声掛けやポータブルトイレ使用等個々に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の物を取り入れながら食事提供すると共に運動機会も取り入れ便秘解消につなげています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	希望に添って入浴していただいています。入浴日を決める方であっても、その方の思いに沿いながら曜日、時間帯、順番を工夫しています。入浴が職員との会話機会にもなっています。	一番風呂や同性介助、好みの湯温等に応じ、週2～3回の入浴支援をしている。皮膚状態に合わせ、ボディソープを使用する方もいる。入浴の難しい方は、声掛けに工夫し入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内に好きなものや写真を飾ったり、休めないときには会話したりお飲み物をすすめている。習慣的に夜間寝れない方は日中に休息していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧を作ると共に、連絡ノートを活用しながら全員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ役割が決まって自分の仕事として行われている。また、屋外での茶話会を企画したり室内だけにならないよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に日光浴や散歩の機会を設けるほか、季節の行事、ドライブへ出かけています。普段の買い物でもお誘いしスーパーへ出かけています。	近くの津島神社へ初詣に行ったり、ドライブで平筒沼や南方の桜、長沼の紅葉見物に出かけている。天気の良い日は、中庭で茶和会や夕涼み会、芋煮会等をしている。プランターに花を植える。病院の帰り職員とコーヒーを飲んでくる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様にもその大切さを話し、少額でも持てるよう支援しています。 必要な物をお伺いし職員が購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を受けて下さるよう説明し、不安や希望を十分職員が聞きながら必要に沿って連絡が取れるよう支援しています。 携帯電話で自由に連絡を取られる方もいます。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	机や椅子と本棚を準備し少人数で話すスペースを作り語らいの場になっている。 また、自室やお手洗いの場所が分かるように張り紙や飾りを掲示している。 夜間は明かり調整をし居心地よい工夫をしている。	フロアは、吹き抜けで天窗があり明るく、定期的に換気を行っている。ひな壇を飾り季節を感じさせている。テレビを見たり、昔の歌のCDをかけたり、体操やゲームなどしながら1日の大半をフロアで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置や読書出来る場所を作り共同生活の中でも一人になれる空間となっています。また、家事やレクリエーションを通し孤独にならないよう支援を行っています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に環境が変わるリスクを話し、使い慣れた物をなるべくご用意いただいています。また、家族の写真や大切にしている物も持ち込んでいただくよう説明しています。	布団やテレビ、タンス、冷蔵庫、携帯電話等を持ち込んでいる。自作の習字や孫の写真を飾り過ごしやすく工夫している。好きな本を読んだり、日記を書いたり、テレビを見たり携帯電話で家族に電話するなど過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を話し合いながら、つたい歩きが出来るよう工夫しています。また、物を片付けるだけでなく安全に利用していただけるよう工夫しながら環境作りをおこなっています。		